

英国金融政策（2024年2月）

次の一手として利下げを示唆も、早期利下げには慎重

2024年2月2日

4会合連続で政策金利を据え置き、サービス価格の高止まりを警戒

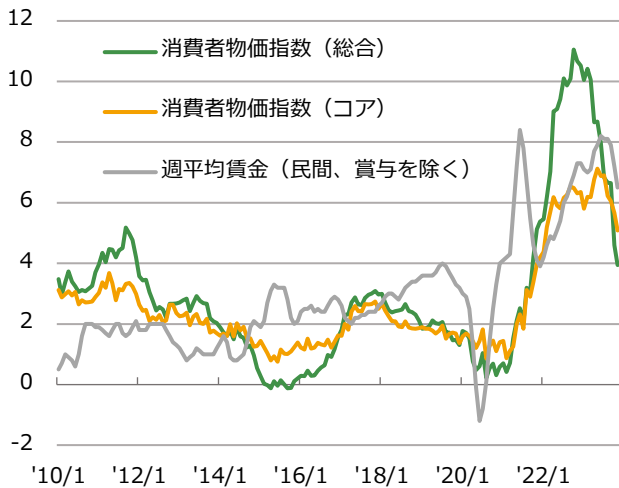
BOE（イングランド銀行）は1月31日（現地、以下同様）に終了した金融政策委員会で、市場予想通り4会合連続で政策金利を5.25%に据え置く決定をし、2月1日に発表しました。総裁を含む6名が据え置き、2名が0.25%ポイントの利上げ、1名が0.25%ポイントの利下げを支持しました。

声明文の明らかな変化として、「より持続的なインフレ圧力があれば、追加の引き締めが必要であろう」との一文が、「政策金利を現水準にどのくらい長く据え置くべきか検討し続ける」との一文に置き換わりました。このこと自体は、利上げの選択肢が排除され、次の一手が利下げに絞られたことを示唆します。また、インフレ見通しに係る当面のリスクは地政学的要因から上振れとしつつも、国内物価と賃金圧力についてのリスクはより均衡しているとして、これまでの上振れから判断を改めました。しかし、当局がインフレへの警戒を緩め、金融緩和に前向きになったかと言えば、事はそう単純ではありません。当面の金融政策に関して、「十分に長期間、景気抑制的である必要がありそうだ」との表現は踏襲していますし、インフレ率の最近の急低下を歓迎しつつも、サービス価格の高止まりに警戒姿勢を崩していません。

実際、市場の織り込む政策金利等を前提にしたBOEの見通しでは、インフレ率は目標値の2%を上回り続け、2026年末に漸く2%に落ち着くとしています。これを受けて市場は利下げ観測をやや弱めましたが、依然、6月の利下げ開始を織り込んでいます。なお、当社は8月の利下げ開始を予想しています。

英国の消費者物価指数と週平均賃金

(前年同月比、%) (2010年1月～2023年12月)



※コアは食品・エネルギー・アルコール・タバコを除く系列
※週平均賃金は3カ月移動平均で2023年11月まで (出所) LSEG

英国の金利と為替

(%) (2020年初～2024年2月1日) (米ドル/ポンド)



※政策金利は発表日ベース

(出所) ブルームバーク

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。